

【富士吉田市】 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

富士吉田市においては、「富士吉田市ICT活用計画及び達成状況を踏まえたフォローアップ計画2023-25」において、児童生徒の1人1台端末の利活用促進に向けた取り組みをまとめている。

授業や学校生活においてICT活用が「特別でない」状況を目指し、児童生徒が端末に触れる機会を増やすことで、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指している。

2. GIGA第1期の総括

令和2年に児童生徒へのタブレット端末の配布、各教室への無線LANの整備を行い、通信環境の向上を図った。しかし導入から期間が立ち端末について起動に時間がかかる、キーボードが壊れるなどソフト、ハード面双方に不調がでてくることも多くなった。次期端末導入についてはOSや端末の耐久性などを精査し、長期間安定してICT教育が提供できるような環境を整える。

教員のスキルにも個人差があり、ICT機器の活用レベルに開きが生じている。一部の教員がタブレット端末やICT機器の使用に対する苦手意識がある状況では、すべての児童・生徒が授業中に同じレベルでICTを活用するには至らない。

成果としては、デジタル教科書等のオンライン教材を使用することで、図表やグラフなどを自由に動かすことや書入れることが可能になり、より理解しやすい授業が展開できたこと、以前は図書室で行っていた調べ物を端末で行うことや、教員が授業で資料を出す時間が短縮され、限られた授業時間の効率化が進んだこと、通信をつなぐことで不登校や病院内分校の児童生徒が授業や教室へ参加するような個々の状況に合わせた学校への繋がりを作ることができた点等が挙げられる。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の利活用方策として、以下の通り定め、ICT環境の一層の活用を目指す。

・教職員のICT活用の推進

児童生徒が端末を活用していくためには、実際に授業を行う教職員の支援が不可欠である。GIGA第1期については導入当初ということもあり、教員のICT活用スキルに差が生じている状況があった。第2期については担当する教員によって利活用に差が出ないよ

う研修等も用いながら意識向上や ICT 機器への苦手感の払拭に取り組んでいく。

・協働的・個別最適な学習の推進

デジタル教科書などの電子教材を用いた学習を定着させ、得意・苦手分野等を学習者本人が把握することで、各々のペースや理解度に応じた自発的・個別最適な学習へと繋げていく。そのために、各種プラットフォームを用いて学習データの可視化、分析を行える環境を整える。更に、データ分析により実際の端末使用状況を把握し、それを基に学校現場の実情に適した支援、施策を行うことで、一人一台端末の活用率の更なる向上に繋げる。

また、各種ツールを用いながら教員と児童生徒や児童生徒間での意見交換や学習発表等を行うことで、協調性やプレゼンテーション能力を育めるよう図っていく。

・児童生徒への学びの補償

本市においては、登校に対して忌避感のある児童生徒への支援のため、富士吉田市民会館内に教育支援室を設置している。端末の持ち帰りを推進することで、支援室や自宅等学校以外の環境でも学びの機会を確保することができる。

また、外国籍児童生徒や障害のある児童生徒など様々な状況に対応できるよう、翻訳アプリや読み上げソフトの導入、活用を学校現場と教育委員会共に検討を進めていく。